

Cente Technical Information

発行番号	002-0007	Rev	第1版	発行日	2010/08/12
題名	DHCPv6動作でメモリ破壊の恐れがある				
情報分類	障害情報				
適用製品	<ul style="list-style-type: none">•Cente IPv6 Ver.1.30 - Ver.1.42•Cente IPv6 SNMPv2 Ver.2.10 - Ver.2.12•Cente IPv6 SNMPv3 Ver.2.10 - Ver.2.12				
関連資料	なし				
<p>【該当するユーザ環境】 ・DHCPv6を使用しているユーザ。</p> <p>【障害内容】 プロトコルスタック内部のUDP受信タスクから呼ばれるDHCPv6の受信コールバック関数のローカル変数領域が想定しているサイズより大きく、スタック外の領域を破壊する可能性があります。それによって問題が発生するか否か、発生するとしたらどのような頻度・症状となるかは環境に依存します。</p> <p>【発生理由】 受信コールバック関数から呼ばれているある関数で変数の宣言にミスがあり、必要なサイズより遥かに大きいサイズ(約17Kbyte)を確保していました。デフォルトではUDP受信タスクのスタックサイズは1Kbyteなので、スタック外の領域への読み書きが発生していました。</p> <p>【回避方法】 回避には、ソースコードの変更が必要です。 (変更箇所については、営業担当またはsupport@cente.jpまでお問い合わせください。)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					